

---

## 第0講 三種の神器を用意しよう

---

---

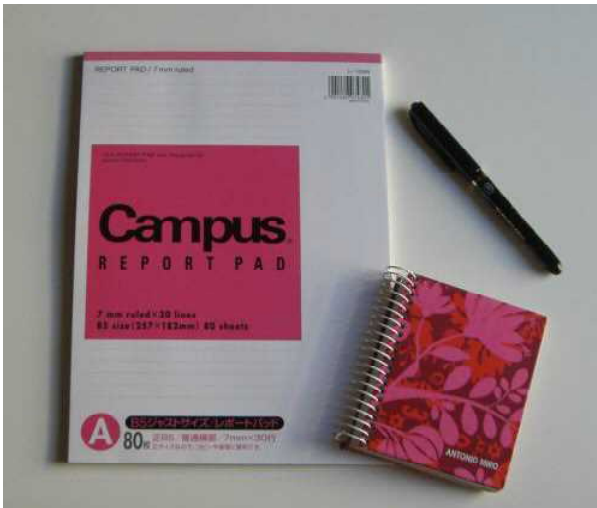
### ●三種の神器① 筆記具を枕元に

---

ゲームのシナリオライターになろう！ そう決めたら、用意するのはペンとノート。アイデアはいつ生まれるかわからない。

出かける時には必ず持参し、寝る時には枕元に置こう。電気を消して布団に入った瞬間に、「あ、閃いちゃった」というのが結構ある。就寝時と起床時に布団の中でプロットを考えている作家もいる。いつ思いついてもアイデアを書き留められるようにしておこう。

ノートは何でもかまわない。大切なのは**自分が気に入ったものであること**。ぼくの場合、プロット&企画用にコクヨの普通横罫B5レポート用紙、携帯用にA7判のスペイン製のバインダーノート。ペンは三菱のリブというサインペンを使っている。お気に入りの見つかったら、ダース単位で大人買いしておくとも勇者になれる。



---

### ●三種の神器② テキストエディターを買う

---

次に、テキストエディターというソフトを用意しよう。元々プログラムを書くために使われていたものだが、プロのシナリオライターは全員エディターを使っている。代表的なものは、次の3つだ。

- ・秀丸（シェアウェア）
- ・Wz editor（ビレッジセンター）
- ・MIFES（メガソフト）

安いもので選ぶと、秀丸。縦書きができるもので選ぶと、Wz Editor。複数ファイルへの検索置換機能で選ぶと、MIFES。プロのシナリオライターの場合、たいていは最初に覚えたテキストエディターを使いつづけている。ぼくは業界に入って19年以上、MIFESを使っている。MIFESは、20個の言葉を複数のファイルにまたがって一斉に置換できるところが凄い。個人的には **MIFESがおすすめ**だが、高い。気に入ったものを使うといいだろう。

-----  
●Windowsのメモ帳じゃだめ？

-----  
ゲームシナリオでは、検索置換という機能を多用する。検索とは、ある言葉を検索すること。置換とは、ある言葉を別の言葉に置き換えること。Windowsのメモ帳は検索置換機能が貧弱<sup>おとこ</sup>で使えない。漢は黙ってテキストエディターを買おう。

-----  
●ワープロソフトはだめ？

-----  
ライトノベルを書くのなら、ワープロソフトがおすすめだ。行間や字間を調整して、見た目を出版時のものに近づけることができる。ぼくも、小説を書く時にはOASYSというワープロソフトを使っている。

でも、ワープロソフトはゲームシナリオの執筆には向かない。1万行ものテキストをスクロールさせたり、検索置換を行なったりするのは苦手だ。テキストエディターの方が遥かに高速で得意だ。乙女も黙ってテキストエディターを買おう！

---

### ●三種の神器③ 同音同訓異字辞典を手元に置こう

---

「打つ／撃つ／射つ」や「突く／付く／撞く」のように、同じ読みだけど字が違うものを、**同音同訓異字**と言う。プロになると、この正しい使い分けが求められる。たとえば、「不意を打つ」なのか、「不意を撃つ」なのか。迷った時に助けてくれるのが、**同音同訓異字辞典**だ。プロを目指す人ならそろえておきたい、クリエイター御用達の辞典だ。

一番のお薦めは、『漢字用法辞典』（角川書店）。ぼくは『同音同訓異字辞典』（柏書房）と併用している。『同音同訓異字辞典』は凄くいい本なので、中古で手に入るならば、是非。

---

### ●てにをは辞典

---

ここからは上を目指す人の道具。文章を書いていて気になるのは、コロケーション、つまり、「この動詞はどんな名詞を目的語にとるのか」という、言葉と言葉の結びつきだ。

たとえば、「眉間をしかめる」という言葉を思いついたとする。「眉をしかめる」から連想したフレーズだが、果たしてこれが日本語として流通している言葉なのか、確かめずに書くとプロとして恥を搔くことになる。新人賞の場合、落選の原因になりかねない。文章のプロになるとは、自分しか知らない言葉や表現を勝手に発明することではない。**現在の日本語を使って読者に伝わるように書く**ということである。

お薦めは小内一氏の『逆引き頭引き日本語辞典』（講談社α文庫）か『てにをは辞典』（三省堂）。プロ志望者の人は、類語辞典より先にそろえよう。

---

### ●ライトノベル志望者はモノの名前事典を

---

作家志望者なら、モノの名前について記した事典を持っておこう。先端にカップみたいなのものがついたトイレ掃除の用具って、何っていうんだっけ？ と思った時に、『モノの名前大図鑑』（ワニマガジン社）、『アレ

何？事典『（小学館）が頼りになる。

数の数え方についての事典も重宝する。『数え方の辞典』（小学館）が便利でいい。

-----

●類語辞典は必須にあらず

-----

類語辞典のほとんどは、創作の役には立たない。例外的に『日本語大シソーラス』（大修館書店）、『類語の辞典』（講談社学術文庫）は使える。

『字通』（平凡社）は熟語が多いので、類語の熟語を探す時に便利だ。

英和辞典については、ぼくは『英和大辞典』（研究社）と、『英辞郎』（アルク）を使っている。

-----

●大きな辞典は天地をひっくり返す

-----

辞典はケースから出してビニールカバーを剥がしておこう。大きな辞典の場合、天地をひっくり返して置こう。翻訳不可能と言われた『フィネガンズ・ウェイク』を訳した、柳瀬尚紀先生お勧めの技だ。上の部分を引っ張って手前に引けば上下が正しい状態で開かれるし、手首に負担がかからない。大きな辞典を持っている人は、是非お試しを。

